

事業所の概要表

(平成 30年 8月 1日現在)

事業所名	グループホームつばさ					
法人名	有限会社 幸心					
所在地	松山市姫原3丁目3-7					
電話番号	089-917-7770					
FAX番号	089-925-7776					
HPアドレス	http://					
開設年月日	平成 15 年 3 月 7 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て () 階部分					
併設事業所の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 ()					
ユニット数	2 ユニット		利用定員数 18 人			
利用者人数	17 名 (男性 5 人 女性 12 人)					
要介護度	要支援2	1 名	要介護1	9 名	要介護2	1 名
	要介護3	1 名	要介護4	3 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	4 人	1~3年未満	1 人	3~5年未満	3 人
	5~10年未満	2 人	10年以上	3 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 4 人			その他 ()
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	岡部クリニック					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 26 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,350 円 (朝食: 450 円 昼食: 450 円)
	おやつ:	食費に含む 円 (夕食: 450 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	・ 光熱費	4,000 円
	・ 水道代	2,000 円
	・ 共用部分維持費	2,000 円
	・ エレベーター・防災用品	2,000 円

家族会の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (開催回数: 4 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 12 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者
		<input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣の住民
		<input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (消防署隊員)	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成30年9月21日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	6		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103169
事業所名	グループホームつばさ
(ユニット名)	1F・2F
記入者(管理者)	
氏名	中川 隆弘・宮本 優香
自己評価作成日	平成30年 8月 15日

<p>【事業所理念】※事業所記入 おこらず あせらず あきらめず</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 <介護計画に沿った記録が書けていない> モニタリングシート・アセスメントシートを作成し、介護記録⇒モニタリング・アセスメント⇒介護計画に出てくる <人材不足である> 賃金の見直しはしたが、充足するほどではない。 派遣社員を雇って助けてもらっている</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 代表者は、防災士として地域活動に参加している。土、日、祝日の午後には、1階ユニットの居間にお菓子を並べ、のほりを立てて駄菓子屋を開店し、利用者が店番をしながらやって来た子供たちと交流している。事業所の夏祭りには、かき氷のチケットを配るなどして、近隣の人も誘っている。 掃除、洗濯、食事等の家事参加や駄菓子屋の店番など、役割や出番をつくる取り組みを行っている。毎日クロスワードをする人は一緒に考え、カルタや花札・将棋の相手、歌など好きなことや得意なことができるよう支援している。家事参加や、楽しみごとをしている利用者の様子をつばさ新聞やブログ日記に載せている。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用前に調査をして意向を聞き、その後も日常の会話などから聞き取りしている	○		◎	入居前面談時に、私の姿と気持ちシートを用いて本人の言葉などを記録している。その後は、追記しながら2~3年に1回更新して把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	職員目線になってしまうこともあるが、表情や仕草などから読み取っている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会が少ない方とは出来ていないと思うが、面会時に出来るだけ話し合うようにしている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	センター方式の書式を使用し作成している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日常的に職員同士やカンファレンスなどで、話し合っているが、職員の思い込みで対応している場面もある				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前に利用前調査を行い家族より聞いている			◎	入居前面談時に家族から聞き取り、利用前調査票にまとめている。趣味や習慣なども聞いている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カンファレンス等で話し合いをして、現状を把握している				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	普段から様子観察に努めているが、できる職員とできない職員に差がある				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	職員同士でその都度対応して、改善を図っているが、精神面での要因を探るのは難しい				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録を活用し、口頭でも伝え把握している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	わかりやすい利用者もいるが、カンファレンスしても答えが見つからない事も多い			○	3ヶ月に1回、計画見直し時のカンファレンスで話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々の介護の中で、本人の望む事を探しその都度話し合っている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスにより、変更を行っているが、課題を具体的にするのは難しいケースもある				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	3か月に1度プランの見直しを行っているが、全てが反映されるのは難しい				介護計画に家族の要望欄を設けて反映に努めているが、「お任せします」「今まで通りで」と言われることが多い。家族の「何かをさせてください」という要望を反映して、洗濯物たたみや食器拭きなどができるよう支援しているケースがある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケアプランを家族に説明し、要望を聞くまたは遠方の家族には電話やケアプランの要望欄を用いて作成している	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その人らしい生活が出来るように支援している				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんにはその都度、協力して頂けるように伝えているが、遠方や事情などで難しい方もいる				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンス・議事録を残し、いつでも見られるようにしている			○	モニタリングシートに支援内容を記入しており、毎日チェックして共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	アセスメントシート・モニタリングシートを作成し、共有している			△	モニタリングシートに、毎日○△×を付けてケアが実践できたかを記入しているが、さらに日々の支援につながるようなモニタリングに工夫できないだろうか。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	介護記録に残すようにしているが、職員で差がある			△	介護計画に基づいた内容という点からは、情報量が少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	カンファレンス・議事録を残しているが、アイデアはなかなか出にくい			○	ミーティング議事録(カンファレンス記録)に職員の気づきや工夫、アイデア等を記録している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1度見直している			◎	年4回、見直しの月日が決まっており、利用者全員同じ月に見直している。 管理者が責任を持って管理し、職員に伝えて見直しのカンファレンスを開催している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	×	変化があった場合は対応できているが、変化ない場合はそのままである			×	3ヶ月に1回の見直し時のカンファレンスで現状確認を行っている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	出来るだけ早期に、状態に合わせ見直している			◎	状態変化時には見直しを行っており、4月に退院後新たに看取り支援の計画作成をした事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	3か月に1度のカンファレンス、もしくはその時に応じて緊急会議をしている			◎	ユニット別に、2ヶ月に1回勉強会と、3ヶ月に1回カンファレンス時に集まる機会を持っている。 緊急案件がある場合は、その日の勤務者で話し合い連絡帳に記入している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員全員の意見を聴くようにしている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	前もって日時を決めて、全員参加してもらっている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	内容をまとめた議事録を全員に確認してもらっている			◎	会議の年間スケジュールを決めており、全員参加を基本にしている。 議事録は、内容に間違いがないかを確認後サインするしくみをつくっている。 管理者が全員のサインが揃っているか確認している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	口頭に加え連絡帳を作り活用している			◎	連絡帳は、左半分を利用者情報を記入し、家族からの伝達事項の記入があった。右半分には業務連絡を記入して見やすくしている。 確認後サインするしくみをつくり、管理者が全員のサインが揃っているか確認している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	連絡帳や事務所伝達表など活用している		◎		
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望に沿った介護を行っていると思う				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	職員間で協力して行っているが、職員が決めてしまっている場面もある			○	朝の洋服やおやつ時の飲み物、飲み物の温度など選ぶ機会をつくっている。 お食事は、メニューを見て自分で選べるよう支援しており、昨秋にはホテルのバイキング料理に行き、好きなものを選んだ。
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	日常的なコミュニケーションの中で、その都度行っている				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースに合わせて介護するようにしているが、それが難しいケースもある				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	各利用者の好みに合わせて、言葉かけているが、引き出す会話が苦手な職員もいる			◎	利用者3名が手をつないで歌いだすと、職員が手拍子をとる様子がみられた。 おやつ時には、二人用テーブルでお喋りする利用者にはソーサー付きカップで飲み物を出し、ゆっくりお喋りできる雰囲気をつくっていた。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	声をかけた表情などから対応できている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	時々、感情的になってしまう場合もあり、職員で差がある	○	○	○	身体拘束や虐待防止をテーマにした事業所勉強会時に勉強している。職員は、穏やかな言葉や態度で利用者にかかわっていた。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	出来る職員との差にバラつきがあり、さりげないが難しい			○	利用者と談笑中に時々「聞こえますか」と、さりげなく確認しながら話している様子が見られた。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	配慮出来ていると思う				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る時は必ずノックするなど、配慮している			○	ノックをしたり許可を得たりしてから入室していた。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ミーティング等で社長より説明を受けている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	昔話など聞き、いろいろ教えてもらうことも多く、日常的に手伝ってもらうなどの関係性ができている				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	食器洗いなど必ず手伝ってもらえる利用者が数人いて、席の配置など考え一緒にできるようにしている				席順は、利用者個々の性格や相性を踏まえ決めている。 昼食時、「食べよう」と声をかけて隣の人を気遣う場面が見られた。
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする。孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場をつくる等)。	○	トラブルになった場合はスタッフが早めに間に入り、距離を取るなど対応している			◎	同じテーブルの人が食器洗いに立つと「私は、足が悪いから食器は洗ってもらい、テーブルでできることをしている」と話してくれた。 利用者のお見舞いに、仲の良い利用者と一緒にいることがある。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	当事者同士だけではなく、他利用者へのフォローもしている				重度の人の名前を呼び「もう元気かな」「今日はどうかかな」と複数の利用者が声をかけてあげると、笑顔でうなずく場面が見られた。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人・家族の聞き取りで、情報をもらい把握している				/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	日常の会話の中から探り、家族に連絡を取ってもらい手紙や来訪などしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	定期的に友人に会う、手紙をもらう・絵手紙を出す、来訪してもらえるなど対応している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつでも面会してもらえるように、面会時間の規制はなく、自由に面会してもらっている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	職員の都合にはなるが、できるだけ外出できるように支援している	△	○	○	月1～2回、1対1や数名単位で希望も取り入れながらドライブや外食する機会をつくっている。年数回は、計画を立てて、季節の花見や道の駅などに出かけている。気候の良い時期には、裏の公園などに出かけている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出はスタッフで対応している				月1回、市社協まで車イスの利用者の体重測定に行き、その帰りに外食の機会をつくるなどして支援している。気候の良い時期には、裏の公園などに出かけ過ごせるよう支援している。
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	状態に合わせ裏の公園などに出掛けるようにしている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族さんも一緒にイチゴ狩りにいくなどしているが、重度の利用者が増えたので機会は減っている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員同士で話し合いを行い、対応しているが要因を見つけるのが難しい				
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	出来る事は継続的にしていけるように努め、介助・支援している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はしてもらうように介護しているが、すぐに手を出してしまう職員もいる	○			
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	歌を歌う、自室で絵を描くなどしてもらっている				掃除、洗濯、食事等の家事参加や駄菓子屋の店番など、役割や出番をつくる取り組みを行っている。毎日クロスワードをする人は一緒に考え、カルタや花札・将棋の相手、歌など好きなことや得意なことができるよう支援している。家事参加や、楽しみごとをしている利用者の様子をつばさ新聞やブログ日記に載せている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	以前からしている事を止めたり奪わない介護をしている	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域に向いてまでは支援していない。小学生の町探検の対応や、駄菓子屋の店番などしている				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自己決定できる利用者は自由にしてもらっている				季節に合った、それぞれに似合う清潔な洋服を着て過ごしていた。首にネックチーフを巻いたり、ネックレスをつけたり化粧をしている人もみられた。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	好みの物を家族に持ってきてもらい、選んでもらっている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	一緒に選んだり、どちらがいい?など声掛けしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時は普段とは違うおしゃれな服装にするように				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなくできる職員とできない職員とで差がある	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	◎	行きつけの美容院への外出支援を行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	家族へ購入をお願いしたり、所持している服装に近いものを購入したりしている			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	可能な限り、自力摂取をしてもらえるように形状を変えるなど工夫している				<p>実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと</p> <p>献立づくり、週2回の買い物、調理は、職員が行っている。</p> <p>◎ 調査訪問日の昼食後、利用者が食器やお盆を重ねたり下膳したり、流し台に二人が並んで立ち、食器洗いをしている様子が見られた。</p> <p>また、もやしの根取りや包丁を使い野菜の下ごしらえをしたり、芋炊きの調理なども行ったりしており、その様子はつばさ新聞やブログ・日記に載せている。</p> <p>魚など苦手なものがあると、本人に確認してから代替品を準備している。</p> <p>◎ 事業所の畑で採れた野菜やタケノコなど季節感のある食材を取り入れている。また、土用の丑の日にはうなぎ、節分には巻き寿司とイワシが食卓に上っている。</p> <p>茶碗や湯飲み、箸等は、家族が持参したものを自分専用にして使用している。</p> <p>◎</p> <p>職員は利用者と同じテーブルで同じものを食べながらサポートをしていた。</p> <p>◎</p> <p>オープンキッチンになっており、調理の音や匂いがあり、様子が感じられる。</p> <p>○ ホワイトボードに1日の献立を書いており、職員が話題にしているようだ。</p> <p>○</p> <p>献立は、一人の担当職員がインターネットや料理本を参考にしながら作成している。</p> <p>○ 定期的な話し合いの機会は持っていないが、調理方法については、口頭でやり取りしている。</p> <p>○ 時には栄養士に献立表をみてもらい、アドバイスを受けるような機会を持ってはどうか。</p>
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	できる利用者にはなるべくしてもらっている				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	自分の役割だと思っている利用者もいて達成感に繋がっている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	事前に聞き込みして、職員間で共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の物をなるべく取り入れるようにしている				
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	個人に合わせた形状で、各職員なりに出来ていると思う				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の好み、使いやすい物を使用している				
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	常に隣で見守れる距離で一緒に食べるようにしている				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	離床可能であれば、他者と一緒にリビングに来れるように支援している	○			
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	医療機関の血液検査や医師と相談しながら1人1人の量を決めているが、職員によって多い場合がある				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少ない時には好みの物を聞いて食べてもらったり、ある程度プリンやゼリーなどストックしているので食べてもらっている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	偏りが無いように配慮しているが、難しいこともある				
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	曜日を決めて消毒をしている				
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	言葉かけや介助で毎日行っている。食後の口腔内確認もしている				<p>△ 口腔ケア時の目視にとどまっている。</p> <p>△ 夕食後は、利用者全員の口腔ケアを支援している。朝・昼食後、重度の人は、職員がガーゼなどを用いて支援するが、自立している人には声かけのみで本人の自主性に任せている。</p>
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	介助で口腔ケアを行う利用者は把握している				
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	歯科医師に来てもらって勉強会などしているが、実践するのに難しい利用者もいる				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	職員が預かり、義歯の洗浄・保管をしている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	見守りをしつつ、必要に応じて支援しているが、口腔ケアが嫌いな利用者には対応が難しい				
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	その都度、歯科医師に相談・受診・往診してもらっている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	座位が可能な内は、トイレ誘導をして排泄の失敗を防ぐようにしている				排泄用品の必要性や適切性、サイズ等については、随時見直し口頭で話し合い、家族にも相談している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	身体面、精神面に影響があると理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェックや本人の様子・仕草などでトイレに誘導している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	利用者の状態・状況に合わせて対応している 座位が取れる間はトイレで排泄してもらうように支援している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄の理解ができる間はトイレで排泄できるように取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	トイレの間隔を介護記録で確認して声掛けや、利用者のリズムをつかみ早めの声掛けするなどしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中・夜間で使い分けたり、家族に相談するなどしている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中・夜間で使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	おやつにヨーグルトを提供したり、水分補給を促したりしている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	見守り程度で入浴できる利用者には、入りたい時間に入れるように支援している	◎			利用者個々に2日に1回の支援を基本にして、毎日や夕食後の希望にも対応している。 一人ひとりお湯を入れ替えている。 馴染みのシャンプーを持ち込んでいる人や、二人で入りたい利用者も見守り支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	長湯しない程度で、利用者のペースに合わせ入浴出来ている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	少しでも自分で洗える所は、洗ってもらっている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けの工夫や職員が代わるなど対応している 2人で入りたい利用者もいるので他利用者に配慮して入浴してもらっている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルチェック・本人の様子を見て見極めている				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の記録や申し送りなどで、イレギュラーな時もあるがほぼ把握している				現在、薬剤内服者が3名いる。主治医に様子報告を行い相談しながら、減薬に向けて取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を把握し、職員間で話し合っている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	往診医にその都度報告し、薬を減らすなど、なるべく薬に頼らない支援を行っている			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	本人の状態をみて昼寝など、リビングで過ごすだけではなく、自室で休んでもらっている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人の訴えがあれば対応しているし、絵手紙を書きたい利用者もいて支援している				対角線
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	絵手紙が書けるように支援もしているが、できないと決めつけて促していない事もある				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	自室に子機を持って行って電話したり、番号がわからない利用者に対応するなどしている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人に必ず渡すようにしているし、読めない利用者には職員が読んで伝えている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族と相談して、電話をかけられる利用者の対応を決めている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	全ての職員が理解できている訳ではない				/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	外出時に好みの物を購入してもらい、支払いをしてもらう時もある						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	職員が必ず一緒に行動しているため、その場面がない						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	利用者の要望があれば、家族に相談して所持してもらっている						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	その都度、家族に相談している						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お小遣い帳を作成し、領収書を必ず残して、家族に確認してもらっている。必要に応じて家族に相談している。小遣いは毎日チェックしている						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	幅広く対応できるように心掛けている	◎		◎	専門医受診時は、家族の希望や都合により、職員が付き添い支援している。 亡き家族の命日の墓参りの希望に沿って同行した。 家族の葬儀に付き添い支援した。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を飾ったり、夜間以外は施錠せずいつでも出入り出来るようにしている	◎	◎	◎	庭の花壇は手入れが行き届き、季節の花や野菜の苗を植え、桜やキンモクセイの幼木があり親しみやすく家庭的な雰囲気になっていた。 玄関前もきれいに掃除をしていた。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節の飾り付けをしたり、定期的に展示物を変えている	○	◎	◎	廊下や居間の壁面には、手作りの日めくりカレンダーがあり、季節の飾り付けをしたり利用者の写真などを飾っていた。 階段や廊下に絵を掛けて、廊下の一角に応接セットを配し、観葉植物を置いていた。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	部屋の換気、掃除はこまめにしている				◎	きれいに掃除をしている。 窓は、開口部分が天井近くまであり自然光が入り明るい。 気になる音や臭いはなく、西日を遮光ネットで遮っていた。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の飾りをして、おやつにも季節感あるものを提供するなどしている					◎	壁面には、栗や紅葉、ススキ、コスモス、お月見、ハロウィンなど季節感を感じる飾り付けをしている。 玄関には、金魚が泳ぐ水槽や本箱があり、1階ユニットではウサギを飼って利用者も世話をしている。 居間で新聞を読む利用者もみられた。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	席の配置に気を配っている、またリビングで過ごす利用者もいる						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えないように配慮している						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのおものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	人居時や来所持に、なるべく今まで使用していた品物を持って来て頂けるようにしている	○			テレビや仏壇、鏡台や椅子などを持ち込み、家族の写真を飾っていた。 居室で過ごすことが多くなった利用者の居室には、職員の提案でラジオを点けていた。		
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	個人に合わせた分かりやすい表示で対応している				廊下に、トイレの文字と方向の矢印を付けて表示している。トイレのドアには「トイレ」と「お手洗い」の両方で表示していた。 また「便所電気こちらです！」とスイッチの上に貼り紙をしていた。 玄関にベンチを置いている。		
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	職員でその都度話し合い対応している						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	利用者の目に入りやすい場所に配置し、自由に使うてもらっている						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人もたらす印象のデメリット等)	◎	安易にカギをかける職員はおらず、見守りに対応している	◎	◎	◎	日中は、鍵をかけていない。 2月の事業所勉強会で身体拘束について学び、その内容をつばさ新聞に掲載している。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所前に説明をしている、それでも不安な家族にはその都度話し合っている						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくても済むよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	外出傾向にある利用者を適度に外出へ誘う、また徘徊のある利用者にもその都度対応している						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用前調査表を用いて事前に職員全員が見るようにしている				/		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	介護記録や申し送りノートに記入し、共有している						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪問看護師に相談し、主治医にいつでも相談できるようにしている						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望があれば、その都度対応している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	セカンドオピニオンとして、訪問医と契約して頂くなど、本人・家族の希望を聞いている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	その都度報告し、合意を得るまで話しあっている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時の情報提供は必ず行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	面会して、様子を確認し医療連携室に声掛けして早期退院できるようにしている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	社長が定期的に病院の連携室や婦長さんを訪問し、入院時又は空室が出来た時など協力してもらっている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護師にその都度報告し、連絡ノートも作成し報告・相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間連絡できる体制にある				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	訪問看護ステーションと医師とが連携できる体制をとっている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	利用者の最新薬剤情報をファイルしてユニットに置いていつでも閲覧出来るようにしている。また各職員が服用する薬を一覧表にして理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員2名以上が一覧表を見て確認して誤薬を防いでいる				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬による状態観察は常にしている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	様子を介護記録に残すようにして、報告している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	面会時や必要に応じて、その都度話し合っている				かかりつけ医や訪問看護師のアドバイスを採り入れた介護計画を作成し、方針を共有している。私の姿と気持ちシートに「最期までホームで見てほしい」という利用者の思いが記録されていた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	対応など、医師・看護師から助言もらい共有している	◎			
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員で話し合い、必要に応じ個人に合わせて行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態に応じて、話し合い理解を得るようにしているが、分かってもらえないケースもある				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	連携を密にとって、相談出来るようにしている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族と話す時間を作り、気持ちを寄り添っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	毎年勉強会の議題にして学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルを定め、いつでも閲覧できるようにして、対応している				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新の情報は閲覧して職員全員が確認するようにしている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	回覧で確認し、流行時は外出を控えるなどしている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	利用者・家族に声掛けして、手指消毒してもらい、職員も1動作1手洗いをしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者の様子を伝え、協力してもらえるように努めている				<p>お花見、夏祭り、芋炊きは、家族会も兼ねて行っており、文書で案内し、つばさ新聞でも誘っている。他のイベント時にも面会時等に参加の呼びかけをしている。</p> <p>日々の様子や取り組みの状況は、ユニット別に毎月作成するつばさ新聞や、毎週月曜日に更新する事業所ブログ姫日記で報告している。毎月の送付書類には、管理者からの様子報告のコメントを添えている。</p> <p>運営推進会議時に、行事や職員の入・退職等の報告を行っている。設備改修等はあまりないが、スプリンクラー導入やエアコン取替え時には家族に文書で報告した。</p> <p>家族来訪時には、様子報告を行い意見や希望を聞いている。また、管理者は、何でも気軽に伝えてもらえるような信頼関係を築くことに努めている。</p>
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時間は決めず、いつでも来て過ごせるようにしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	案内状を送ったりして、イベント参加を誘い、気軽に外出出来るようにしている	○			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	請求書に一言コメントを添えたり、新聞・ブログ・電話などで、必要に応じて連絡している	○			
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	来所持に質問・報告などして、来所できない家族にはケアプランに要望欄を書いてもらえるようにしている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族会で認知症の基礎を講習したり、認知症の知識を持って理解して頂けるようにしている。来所持には話し合いもしている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	その都度報告している	○			
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	全ての家族に招待状や案内を送って、参加を促している				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	入所時に説明し、変化あった際には説明理解を求めている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	新聞を各ユニットで作成し、ブログも毎週更新している。来所持や電話口で聞いているが、あまり意見が出ない				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その場で全ての書類にサインしてもらうのではなく、説明して持って帰って頂き、納得して署名・捺印してもらっている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退所時は、介護記録を見せて具体的な説明をしている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明している				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	社長が地元な事もあり、地域の行事にや防災士会議・町内会行事に参加しながら、事業所を理解してもらえるように声掛けしている		◎		<p>代表者は、防災士として地域活動に参加している。土、日、祝日の午後には、1階ユニットの居間にお菓子を並べ、のほりを立てて駄菓子屋を開店し、利用者が店番をしながらやって来た子供たちと交流している。事業所の夏祭りには、かき氷のチケットを配るなどして、近隣の人たちも誘っている。</p>
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	町内の行事には出来るだけ参加している		○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	駄菓子屋をやっている事で、近隣の方との触れ合いがあり、避難訓練への参加や、外に出た利用者の報告などしてもらっている				
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	◎	駄菓子屋や夏祭りなど地域の方が参加できる取り組みをしている				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	登校する子供や公園に散歩にくる親子など、様々な人が手を振ってくれたり、駄菓子屋のついでに遊びに来てくれたりする				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	イベントなどの参加や手伝いなどお願いする事はあがるが、日常的な外出は職員で出来ている				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	外出できる機会を増やして、喫茶店など飲食店に行くくらいしか出来ない				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	運営推進会議に参加している方の協力は得られている。消防・警察・理美容室・小学校・公民館には理解を求めたが、日常的ではない				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	◎	参加してもらっている	○		◎	毎回、利用者や家族、地域の人の参加がある。会議後には、お花見や夏祭り、芋炊き、避難訓練を行っている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している			○	利用者の状況や入退居、取り組み、外部評価の結果や目標達成計画を報告している。家族に会議報告書を送付し、また会議の概要をつばさ新聞にも載せている。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	必ず質疑応答の時間を設け、市役所・包括・社協・民生委員・家族から意見を聞いている			◎	△	取り組みについての質問はあるが、意見や提案などはあまり出ていない。いろいろな意見や提案などを聞けるような会議に工夫がほしい。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	前もって日時を伝え参加しやすいようにしている。イベント時の運営推進会議は土曜日など休日前に設定している			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	議事録を取り、送っている					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	目につくところに、理念や行動指針を置き、介護記録にも入れて見られるようにしている					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	誰でも見れる場所に、理念・行動指針を貼っている	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修の回覧をして、有休を使って参加できたり、社内研修(勉強会)は全員参加です。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	社内研修(勉強会)を職員が持ち回りで担当し、発表する場となっている					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	10段階の能力評価があり、出来ることが増えることと給与が上がるシステムにして、職員のやりがいやスキルアップに繋げている					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	合同勉強会などやっていたが、職員不足もあり社内研修になってきている。外部研修は回覧してもらっている					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	慰労会など行っており、ストレスマネジメントの話もしている	○	◎	○		代表者は、年2回考課表をもとに職員と面談している。また、シフトに入って現場で一緒に取り組みながら職員の意見を聴く機会を持っている。年1~2回食事会をしている。
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会の場で考察する時間や資料など用意し学んでいる					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	日々の会話の中で話したり、カンファレンスの場で意見交換している					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	お互いが注意し合い気を付けている				◎	職員は、不適切なケアを発見した場合は、その場で注意して管理者に報告することを認識しており、ミーティング時に話し合うこともある。昨年12月の職員勉強会時には、虐待防止について勉強しており、その内容をつばさ新聞に掲載している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者も現場職員の1員として働きながらチェックしている					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	スタッフが資料を作成して、勉強会を行っている					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	勉強会がその場となっている					
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族とよく話し合い、拘束しなくても良い介護をするようにしている					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	勉強会の題材になっている					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	提案する事しか出来ないが、相談があれば受けられることができる					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	社長の知り合いの司法書士に相談出来るようになっているが、まだ相談がない					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応別マニュアルを作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	救急救命講習を受けているが、定期的には訓練していない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットノートを活用している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	利用者の状態が変わると、その都度話している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	職員が対応するのではなく、社長が窓口となって対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	社長が対応している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	社長が迅速に対応している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意見ポストを設置している。運営推進会議や職員の聞き込みなどで情報を得ている			△	運営推進会議時に、意見や要望を伝える機会をつけているが、あまり意見等は出ないようだ。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見ポストを設置している。家族会やイベントなどで意見を聞いている	◎	○	○	運営推進会議に参加する家族は、機会がある。家族会は交流会として行っている。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	重要事項説明書に苦情の申す方法や連絡先など記載し、公的窓口の情報を載せている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	◎	出勤時、常に足を運んで聞いてくれる				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	一対一になった時に意見交換している			○	管理者は、シフトに入って一緒に取り組んでおり、日々の中で意見や提案を聴き、検討している。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	わかる範囲でしている				
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価と課題を出して、向上を図っている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	作成しているが、全てが達成される訳ではない				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	報告はしているが、モニターまではしていない	○	○	△	運営推進会議時に報告し、家族にも送付している。モニターをしてもらう取り組みは行っていない。
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議で話している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している				火災等の際には、町内放送で知らせて協力してもらえ体制を確保している。昨秋の避難訓練時には、地域と家族の参加があり、避難した利用者の見守り役をお願いした。地域の防災訓練に、利用者と職員が参加している。伊方原子力災害時は、大洲市のグループホームを受け入れることになっている。家族アンケート結果を踏まえた取り組みを検討してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	避難訓練時に昼間と夜間で想定を変えて訓練している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	している				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練に参加・協力してもらい、協力体制を確保している	△	◎	◎	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	社長が防災士を取得し、防災会議に参加したり、小学校で行う大規模な防災訓練に参加するなどしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	防災会議や町内会で認知症の話をするくらい				代表者は、町内会や防災士会の介護相談担当者になっており、月2～3回相談支援を行っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	介護相談等している		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	駄菓子屋をして近隣の子供やその親御さんが来てくれたり、夏祭りに参加してもらえるようにしている				代表者は、地域の防災訓練時には、防災士として活動している。 小学校の町探検学習で小学生の訪問を受け入れている。 松山市の子育て支援事業の行事の一環として年1回幼児と母親の訪問を受け入れて交流している。
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望があった場合、積極的に受けている。 ヘルパー2級実習受入済				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	可能な限り参加している			◎	